

最高学部

2024年度生活経営研究実習について

神 明久

生活経営研究実習とは、自由学園最高学部(大学部)1・2年生の必修科目であり、学生は6つのグループに分かれ、自由学園の運営に直接かかわることで、課題発見・解決のプロセスを実践的に学ぶ。また、そこで得られた知見を通して、社会の問題について考え、後期課程での研究活動に生かすこともこの講義のねらいの1つである。以下に、2024年度の実習の活動内容について、2025年2月28日に行われた生活経営研究実習報告会の内容から述べる。

1.各グループからの報告内容について

庭園・自然環境:樹木

庭園自然環境樹木グループからは、今年度の活動内容を、整備・剪定、収穫、座学・見学、学内外への活動の四つの分野に分けて報告があった。まず、整備・剪定については、7つの活動の中から学園外周と道具の整備について報告があった。具体的には、数年ぶりで行われたヒイラギモクセイの剪定、学園敷地の雑木やフェンスからはみ出した枝葉の整理、雨天時に行った道具の手入れについて述べられた。また、梅の開花時期を定点観測したデータを活用し、景観や収穫量の向上を意識した作業の様子についても話があった。収穫については、大島桜・もみじ・椿の葉、たけのこ、梅、柚子、夏みかんの様子に加え、その後食グループによって加工され、昼食や各部の食事に提供されたことも紹介された。座学・見学については、エコプロ2024への参加や柏木農園での学び、さらに、新宿御苑の庭園や菊花壇展の見学、学内外への活動としては、初等部での樹木授業や学部祭での企画、門松作り、生活団で幼児が梅を収穫する活動の際のサポートなどについての報告があった。最後に、1,2年生共に学びの振り返りと感想が述べられた。

庭園・自然環境:草本・灌木

草本灌木グループからは、実習場所が、1年生は南沢キャンパス、2年生は向山緑地・立野川最上流部となっていること、そこで毎週の見回り、観察記録、移植栽培実験、定点撮影、除草などが実施されたことが報告された。具体的には、キャンパスでは気温・水温・地温の計測や草刈りのほか、外来種問題にも対応し、特定外来種(オオイヌノフグリ

やオオアレチノギク等)の駆除、メリケンカルカヤの除草などについて詳しく述べられた。また、ツルニチニチソウやコンテリクマガゴケは管理条件を工夫して扱っていることも併せて報告があった。一方、向山緑地・立野川最上流部の調査では約240種の植物を確認し、帰化種率は約30%と高かったことが紹介された。これは人為的な影響が強いことを表しているが、一方でワニグチソウなど希少種も見られ、この地域の貴重さが再確認されたと述べた。ただし今後は公園化や道路建設といった開発が進むため、保全の在り方を考える必要があるとのことだった。

この他、地域とのかかわりとして、環境フェスティバル参加や、自然観察会開催を例に挙げ、学生が地域の一員としていくつかの役割を果たしてきたことにも触れた。

農芸

農芸グループからは、各部門の活動と発展的な学びの2つに分けて報告があった。野菜部門では、植物同士を組み合わせて育てる「コンパニオンプランツ」を学び、生姜と里芋を組み合わせた栽培や、ネパール研修での事例を紹介、鉢物部門ではポインセチアの短日処理を行ったが、管理方法の改善が課題であることが報告された。切り花部門では菊を扱い、輸入肥料から学園や近隣で得られる資源を使った肥料に切り替えたこと、花壇部門ではバラの冬の強剪定を実施し、翌年の生育を整えたことがそれぞれ報告された。

発展的な学びとして、資源エネルギーグループと協力し、学園内の素材を使ってクリスマスリースを制作したこと、幼児生活団や初等部への栽培サポートや花の提供をしたこと、堆肥や資源の循環などの活動が紹介された。最後

に、来年度からは従来の慣行農法から有機農法へ移行することや、食グループと合同チームになることが報告された。

食

食グループは、1 年生、2 年生それぞれの活動についての報告があった。1 年生は主に秋期に、学園で採れた柚子や唐辛子を活用した柚子胡椒作りや、柚子・夏みかんジャムの製作、36 キロの菊芋の収穫・保存などの活動を具体的に紹介した。2 年生は、寮生向けの栄養バランスを考えた料理のレシピ作成やおにぎり企画、残食の調査を通じて、食事の提供状況や意識改革の必要性などが報告された。加えて、しのめ茶寮で販売されている自由学園のスイーツ「希望満充」の歴史や意義を調査し、しのめ茶寮で展示する活動も行い、学園の伝統や食文化を学内外に伝える良い機会となったとも述べた。最後は、活動を通し食材の活用、調理技術、栄養や食品ロスの意識、学園の歴史の理解など、多角的な学びが得られたと締めくくった。

資源エネルギー

資源エネルギーグループは、1 年生に関しては、電子回路、CAD の設計ソフトの操作、溶接などの基本技術を学んだこと、農芸グループからの依頼で行ったスノコ製作、2 年生とともに体操会本部やクリスマスイルミネーションの設営などを行ったとの報告があった。学園の運営に直接かわる場合のスケジューリングを含むマネジメントについては大きな学びがあったとのことだった。2 年生は春季に学部食堂の音響整備を担当し、スピーカーの音を食堂全体に均等に届くよう調整するほか、スピーカーの出力位置を切り替えられるスイッチを開発・設置を行ったこと、秋季には体操会本部やクリスマスイルミネーションの設営を行ったことが報告された。また、実習報告会資料の制作も行い、前年のデザインを踏襲しつつ文字配置や読みやすさに改良を加えた様子が報告された。

図書・記録資料

図書・記録資料グループからは、1 年生については図書館学や記録資料学の基礎を学びながら、卒業論文の製本や新聞・写真の管理、展示会などの実践を行ったこと、特に「学園資料を使った展示」では、自分たちで企画・解説を行い、資料の扱い方を学んだと報告があった。さらに「地域

社会と自由学園の 100 年」という展示を 11 月 23 日におこなわれた自由学園キャンパスイベント「JIYU1123」で開催し、地域住民を含む多くの来場者に学園の歴史資料を紹介したことについても紹介された。2 年生については、「中高生の図書館利用促進」をテーマに、図書館利用に関するアンケートを実施し、多くの生徒が図書館を使っていない現状について報告があった。また、その結果を受け、学園資料を紹介する「自由学園あれこれ展示」や体操会に関する展示、学部祭での移動型図書館などを行い、利用促進も行ったことが紹介された。加えて、3 年生が履修した実習 3 では「自由学園の食事関係資料群」を調査し、目録や解題を作成したこと、これらの研究は今後の卒業論文につながる予定であるとの報告があった。

2. 合同実習と講評

発表の最後は、各グループが協力して行う、合同実習について実習リーダーより報告された後、最後に遠藤敏喜副学部長より全体の講評があり、実習活動が「Think Globally, Act Locally」という理念に沿った自由学園流の取り組みであること、社会とのつながりを持ちながら、学校運営や教育活動が社会課題と関わる形で展開されていると実感できる報告内容だったと述べた。

おわりに

ここ数年、最高学部の特徴を今まで以上に外部に向けて発表する機会が増加してきた、その中であって、本報告会で副学部長が講評でも述べた「学生が自分の成長のためだけでなく、学園や社会のために活動する姿勢が、社会課題の解決につながる」という言葉からも分かるように、生活経営研究実習は間違いなく、最高学部の特色を表すカリキュラムの一つである。そういった観点からも、今後さらにこの活動が発展していくことが望まれる。

参考文献

神明久 2024 「2023 年度生活経営研究実習」『自由学園年報』第 27 号